

モデル／類比／比喩の世界  
を  
楽しむ

吉田 章宏

2017・2・25(土):13:15~14:45

淑徳大学池袋サテライト・キャンパス

# 世界と我、我と世界

世界の中の我、我の中の世界

人間の一生は世界の旅:

多種多様な世界の間を歩む一時の旅

- 1) 空間の旅: Dimensions; Cosmic Eye
- 2) 時間の旅: Our History in 2 Minutes
- 3) 世間の旅: Our History in 2 Minutes
- 4) 人間の旅: 我と我 (我々) の間: 共育の旅

# 多種多様な「生きられた」世界

子どもの世界、大人の世界、老人の世界、男の世界、女の世界、…

盲聾啞の世界、身体障害者の世界、精神病者の世界、認知症患者の世界、看護者の世界、医師の世界、…

健常者の世界、病者の世界、異常者の世界、…

芸術家の世界、スポーツマンの世界、小説家の世界、**学者の世界**、落語家の世界、映画人の世界、…

教師の世界、銀行家の世界、政治家の世界、…、

サラリーマンの世界、商人の世界、大富豪の世界、…

賭博者の世界、犯罪者の世界、警察官の世界、弁護士の世界、裁判官の世界、

ヤクザの世界、親分の世界、チャンピラの世界…、

その他諸々の世界、……、

何と読めますか？

春 夏 冬  
二升 五合

## 一つの読み方

春夏冬：「秋がない」＝「あきない」＝  
「商い」

二升：「升二つ」＝「升升」  
＝「ますます」＝「益々」

五合：「一升の半分」＝「半升」＝  
「はんじょう」＝「繁盛」

それで、

春夏冬 二升 五合

高い 益々 繁盛

「春夏冬 二升 五合」という文字  
が、お寿司屋さんの湯飲みに書かれ  
ていた。 その状況のお蔭で、理解  
の方向が限定され、判読できた。

私（吉田章宏）は、  
教育の現象學的心理學者



***A Phenomenological Psychologist of Education***

# 「教育」に「共育」に「共生」

教育は、「教えて育てる」と一般に解されています。

蘆田恵之助が到達した「教育の極意」(教育遺訓)は、  
「共に育ちましょう」でした。

「教育は共育である」と考えてはどうでしょうか？

「教育は 共育 である」と、理解しましょう。

共育は、共生の脈絡に位置づけられます。

人間は、教え育て、共に育ち、共に生きる。



# 教育＝共育は、**授業**とも理解できます。

教育＝共育は、視点を換えれば、授業＝受業（「業」（ギョウとゴウ）の授受）でもあります。授業は、常に、同時に、「受業」でもあります。

授業では、同時に、「受業」が起こります。

授業で授受されるのは、「**ぎょう**」（業）と「**ごう**」（業）。

- 1)「**ぎょう**」（業）：知識、智慧、技術、技芸……。 (**内的地平**)
- 2)「**ごう**」（業）：「善悪の報いの原因となる行為」。

或る時点で行為（授業）が在ったことにより、その後の時の流れの中で、その人の人生で、多種多様な幸不幸、運不運……が生起する。その生起の原因となっていた、と後になって解ることになる可能性がある、そのような行為。誰にも気づかれない場合もありうる。幸不幸の種子。業の欠落も業のうち。 (**外的地平**)

業（ギョウ）と業（ゴウ）の繋がりは、  
真理が「鏡」または「巖」として働くからです。

- 真理は、知識として、または、智慧として、働きます。「鏡」または「巖」として働きます。
- 「鏡：真であるのは、与えられた事実についての正しい言表。」（ギリシヤ的な真理概念）
- 「支えとなる巖：或る物、人、神の信頼性。」  
（ヘブライ的な真理概念）（ボルノー『真理の二重の顔』）
- 鏡と巖は、M. 「比喩、類比、モデル」の一例
  - と見ることができます。

# 覺悟(カクゴ) = 「覚り、悟る」

「あっ、そうか！な—んだ！」、「なるほど！」

- 「覺る」: 「見てははっきりと」、「學ぶ」に類似。
- 「悟る」: 「りっしんべん」「五＝我」「口の中で言う」
- 「覺悟」: 外から学び、内で思い、合せて「さとる」。

**覺と悟とは相補う。バランスが肝要。**

- 論語の言葉(為政) 「學而不思則罔、思而不學則殆」  
「学んで思わざれば則ち罔し。思うて学ばざれば則ち殆うし。」  
「学んでも考えなければ(ものごとは)はっきりしない。考えても学ばなければ、(独断におちいって)危険である。」  
(学とは本を読み先生に聞く、外からの習得をいう。)

# 「覚悟」するのとは何か？

比喩的に言えば、「覚悟」され学ばれることは、経験から濃縮される——経験者にとって——大事なこと(本質と呼ぶならば呼べ)、その大事なことを「覚り、悟り」して、濃縮し、表現する過程が抽象化。

濃縮された抽象を稀釈して(比喩的に言えば、溶液で薄めて)、原経験と同一あるいは類似の経験に戻して活かすのが、具体化だ、とも言える。

- 武田常夫の言う「教師にとって大事なことは、失敗の意味を明確にとらえることであろう。そうでなければ、また同じような失敗を繰り返しかねないからである。」
- 失敗の意味は、抽象化によって捉えられる。
- 畑村洋太郎「失敗学の法則」も、大いに、ご参照を。

# 教育心理学の「覚悟」の抽象

「共に育ちましょう」 蘆田 惠之助

*“If I had to reduce all of educational psychology to just one principle, I would say this: The most important single factor influencing learning is what the learner already knows. Ascertain this and teach him/her accordingly.”*

David P. Ausubel

「教えないことが教育だ」 武田常夫

教育(=共育)  
教、育、學、覺、悟

- 教
- 育
- 學
- 覺
- 悟

# 具体 M 抽象

具体(具體、具象) Concrete, Concretization.

抽象 Abstract, Abstraction.

**MAC**:  $M = A$  (Abstract) =  $C$  (Concrete).

Mは、CとAの間の中間に生れる。CかAかは、**相対的**である。Mは、CとAとを媒介し、絆を強める。

**M**: **MAM** ( ! ) **M**etaphor/**A**nalogy/**M**odel

M: Mediator, Meditator, Medium, Medley, Middle, Mind, Mirror, Method, ...

**MAM with MAC**

# 具体世界 C と 抽象世界 A その間を繋ぐ中間世界が Mの世界

- 「ツマリ？」で、具体から抽象へ。
- 「タトエバ？」で、抽象から具体へ。（庄司和晃）
- 具体Cと抽象Aの対応は、常に、一対多である。  
一具体Cから無数の抽象A化が可能である。  
逆に、一抽象Aから無数の具体C化が可能である。
- MAMは、半抽象で半具体である。抽象化の過程で、その<意味と構造>を限定し明確化し、方向づける。具体化において、その逆の方向づけをする。



# 抽象化の一事例：今年の漢字

## • 2016年 金

2015年	安	2014年	税
2013年	輪	2012年	金
2011年	絆	2010年	暑
2009年	新	2008年	変
2007年	偽	2006年	命
2005年	愛	2004年	災
2003年	虎	2002年	帰
2001年	戦	2000年	金
1999年	末	1998年	毒

## ふと思い出したこと「麒麟」

昔、高校時代に読んだ、谷崎潤一郎の『文章読本』に、**麒麟**という語が、文章の書き始めの切っ掛けとなるというようなことがあった、ことを思い出した。この記憶は、あるいは、間違いかもしれない。しかし、その記述は印象深く、そのように述べていたと思い出されたということは、真である。そして、書くことの切っ掛けとなりうる、ということも、真であるように、現在の私は思う。麒麟という語が持ちうるそのような力は、この語の何処から生まれて来るのだろうか。

「今年の漢字」は、それぞれに、どのような物語を、**具体化によって**、思い描かせるであろうか。思い描かせる力の豊かな抽象と、貧しい抽象とが、在るのではないか、と気づく。

学問は、厳密で、精密で、詳細で、膨大で、あればよいのか。

「学問の厳密さについて・・。この帝国では地図の作成技術が完成の極に達し、そのため一州の地図は一市全域をおおい。帝国全土の地図は一州全体をおおうほどに大きなものになった。しばらくするとこの膨大な地図でもまだ不完全だと考えられ、地図学院は帝国と同じ大きさで、一点一点が正確に照応しあう実物大の帝国地図を作り上げた。その後、ひとびとはしだいに地図学の研究に関心をもたなくなり、この巨大な地図は厄介ものあつかいをされるようになる。不敬にも、地図は捨てられて野ざらしにされてしまった。/西部の砂漠では、ぼろぼろになって獣や乞食の仮のねぐらと化した地図の断片がいまでも見つかることがある。このほかにかつての地図学のありようを偲ばせるものは、国じゅうに何ひとつとしてない。」

J・A・スワレス・ミランダ『賢者の旅』(1958)より』(ホルヘ・ルイス・ボルヘ(1976)152-153)

# 「すべて偉大なものは単純である。」

フルトヴェングラー(音楽指揮者)

「これは芸術家のための箴言である。というのは、何よりもまずその『単純』という言葉が、『全体』という概念を前提としているからです。ここで言う『単純』さとは、『すべてを見通して』、『突如としてこの一挙に』正しくその全体をつかむ、という意味です。この意味における『全体』とは、決してただそれ自体のために分離した世界の一部であるというだけではありません。一部分にはちがいないが、それはこの世界をその『全様態』において反映する部分なのです。」

## 蒐集した短歌から 吉田章宏

人おのおののこころ異なりわが歌やわれに詠まれてわれ愉します 窪田空穂  
身のうちに未知の世界を見ることを 歡びとする悲しみとする 竹久夢二  
人はひと吾はわれ也とにかくに吾行く道を吾は行くなり 寸心 (幾太郎)  
世の人は我れを何とも言わば言え我が成す事は我れのみぞ知る 龍馬十六歳  
我という人の心はただひとりわれよりほかに知る人はなし 谷崎潤一郎  
少年貧時のかなしみは烙印のごときかなや 夢さめてなほもなみだ溢れ出す  
坪野哲久

今までは人の事だと思つたにおれが死ぬとはこいつ堪らぬ 蜀山人  
露とおき露と消えぬる我身かな 難波のことは夢のまた夢 豊太閣  
見舞いたる友には癌と言ひし夫のなどて吾には言わず逝きにし  
癌を知りし夫なれば共に手を取りて嘆きしものを今に悔みぬ 和田谷春江

旅に病で夢は枯野をかけ廻 (めぐ) る 芭蕉 (笈日記)

うらをみせ おもてをみせて ちるもみじ 良寛 (辞世とか)  
ちるさくら のこるさくらも ちるさくら 良寛  
ちるもみじ のこるもみじも ちるもみじ 読み人知らず

W. Ross Ashby (1903–1972)



# 研究を牛の屠殺に喩えれば

W. Ross Ashby

丸太で、牡牛を叩いて殺そうとしたとしよう。君が叩いて、叩いて、叩いてみても、牛は死ぬどころか、猛り狂い、遂には、丸太を振り回す君に向って突進し、その鋭い角で、君を刺し殺すかもしれない。

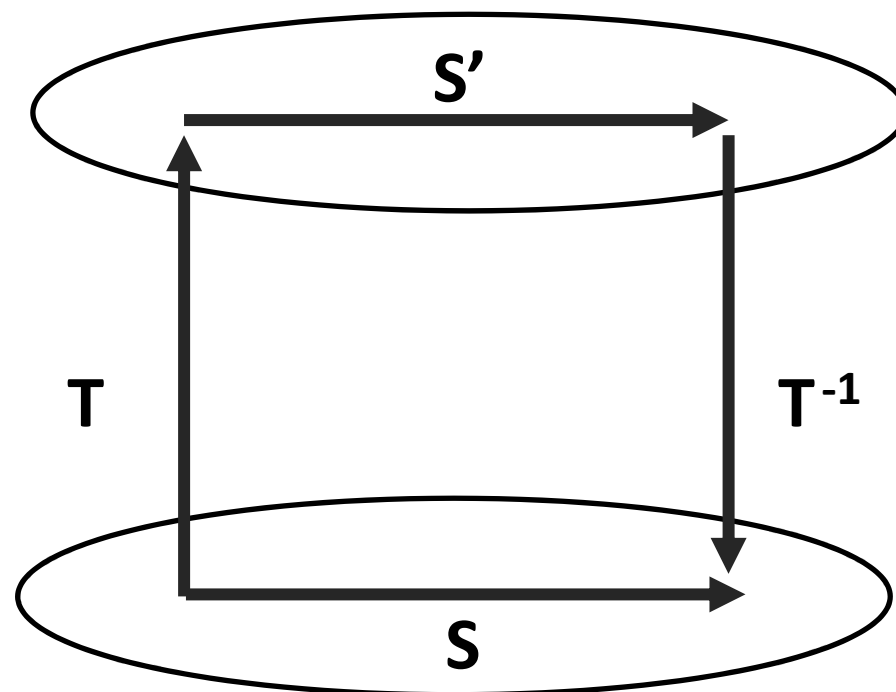
君が、鋭い剣で、牡牛の眉間を素早く強く一突きすれば、牛はドサッと倒れて、即死するだろう。

君たちはどちらの研究をする積りかな？

# W. Ross Ashby 先生の教え (1965)

(資料配布)

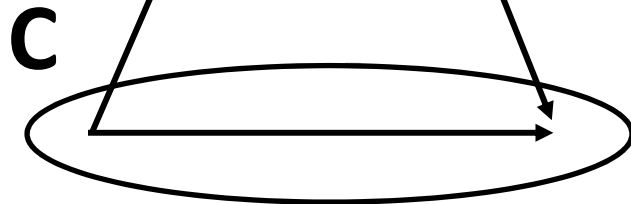
$$S = T^{-1} S' T$$





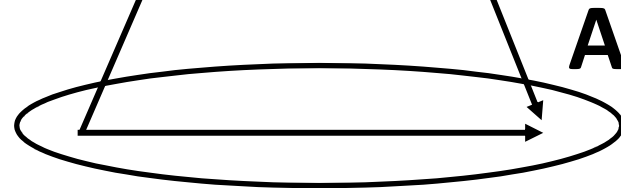
### Abstraction

The far terms:



The Near Terms:

### Concretization



### Abstraction

### Concretization

The far terms:

A

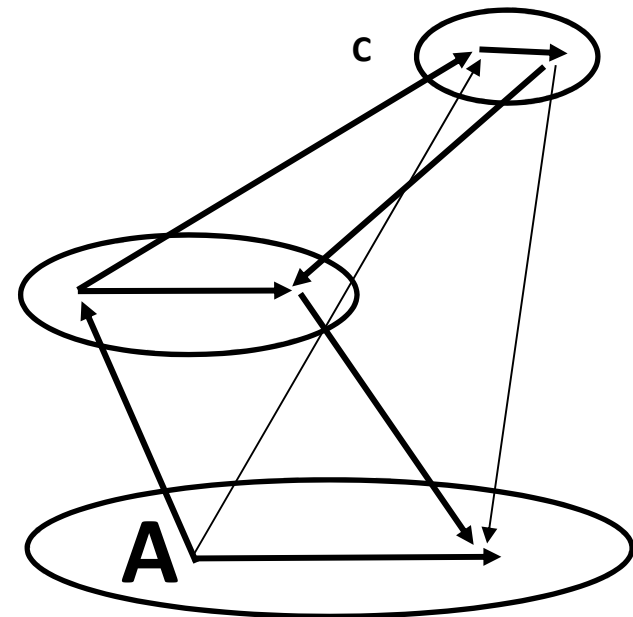
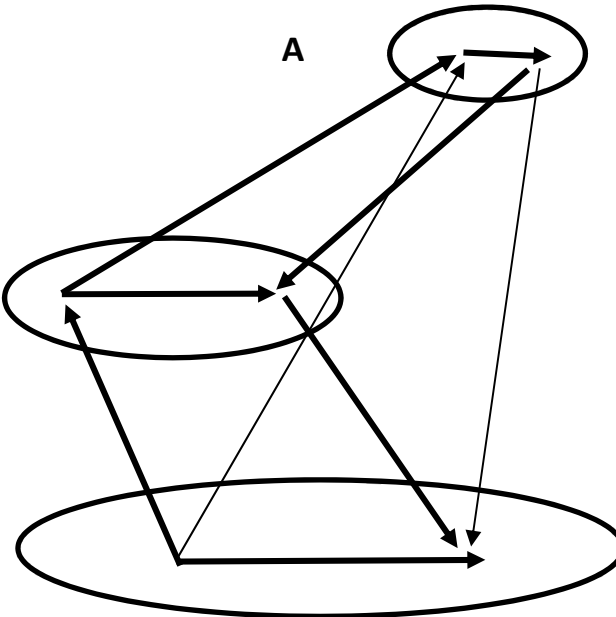
C

The Middle terms:

M

The Near Term:

C



The Far term

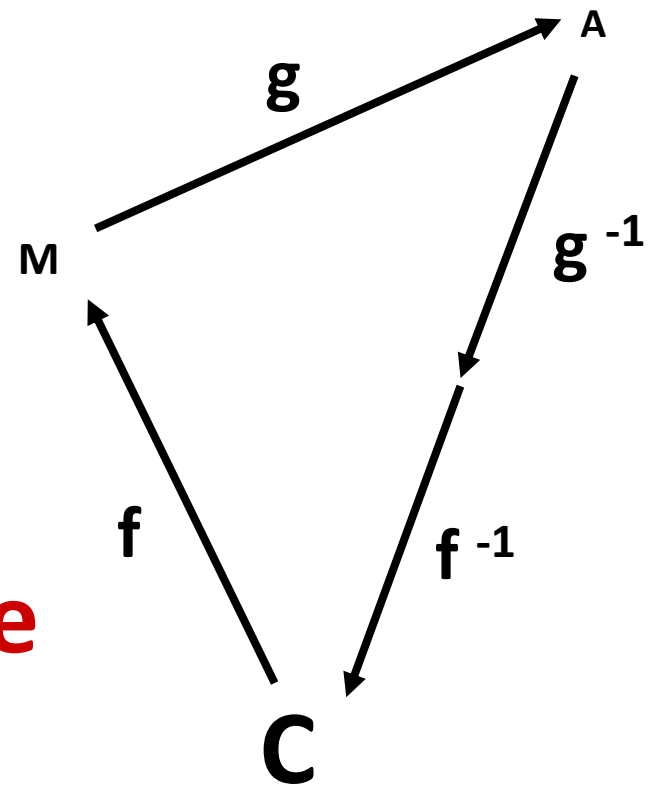
The **Abstract**

The Middle term

The MAM

The Near term

**The Concrete**



The far term

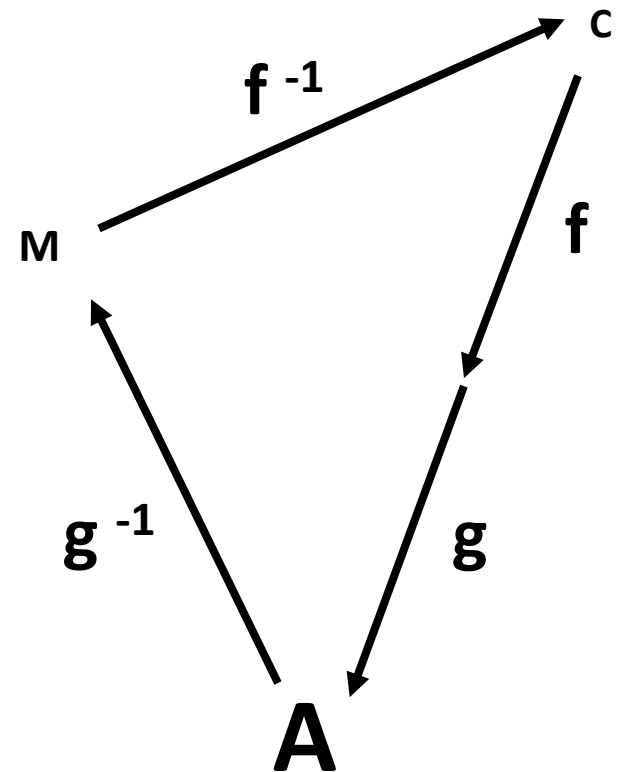
The **Concrete**

The Middle term

The MAM

The Near term

**The Abstract**



## The essence of Phenomenology: 現象学の本質

“To see **oneself** is to see the **world**, and to see the **world** is to see **oneself**. That is the fundamental attitude of Phenomenology.” ( by Jiro Watanabe, 1978)

「自己を見ることが世界を見ることであり、  
世界をみることは自己を見ることである」  
(渡邊二郎、1978)

## 戦争と平和 その抽象化と具体化(1)

「戦争と平和」全体の経験は抽象的に一面的にも語れる。

しかし、この巨大な出来事を多面的に抽象化して語るには？

「トルストイは、『戦争と平和』を支える全体を見る眼をつくり出すために、まずひとつの視点とらえた世界を呈示し、つづいてその視点を乗り越える視点をみちびき出して、第二の視点にとらえた世界をあらたに呈示する。(続く)

## 戦争と平和 その抽象化と具体化(2)

つづいてまた、その視点を乗り越える視点をみちびく・・・という仕組みによって、そこに描き出された世界を重層化し、ついには徹底的な多様性をつくり出してゆく。そのトルストイに特徴的であるのは・・・、**ふたつ以上の視点のとらえる世界の、おのおのの間にある矛盾を、時の要素をみちびきいれることによって、矛盾のままにそれぞれ、ともに意味あるものとする**ことである。」(大江健三郎 『小説の方法』 124ページ)

## 「人間は神の視覚器官である」(オルテガ)

- 「あらゆる個人、あらゆる世代、あらゆる時代が、取り替ええない認識の装置として現れる。完全な真理は、自分の見るものと隣人の見るものとを連結させ、そしてそのように無限に広げて行ってのみ獲得される。各個体はそれぞれに不可欠な視点なのである。すべての個人が部分的に見たものを結合し織りなすことによって、普遍的、絶対的な真理にいたるこゝろが期待できよう。」(オルテガ著作集I, 267ページ)
- 「神が人間を通して事物を見るのである。あるいは、人間は神の視覚器官である……」(同上書、268)



# 「想像説明」の定石

(斎藤喜博校長の島小学校の授業における)

- 「授業のなかで、ある子どもがある解釈、意見、考え方を発表したとする。すると、他の子ども達は、その子どもの解釈や意見や考えの背景にある考え方をその子どもの気持ちになって想像して説明する。」 「子ども達は、他者の生きられた世界を想像し、その思考を辿ることを学ぶ。そして、自らの世界を拡大し、豊かにし、自己と他者との異同を具体的に学ぶ。そのことを通して、互いの個性を、日々の学習において、極めて具体的に理解していく。また、教師も、自己と子ども達の、それぞれの個性を、日々の実践を通じて具体的に豊かに理解するにいたる。」

吉田章宏『ゆりかごに学ぶ』214ページ

# 抽象化と具体化の共有へ

認識とコミュニケーションのためのM

**法華経** (妙法蓮華経) の中の比喩 (M) による教え

七喩: 「火宅 (三車一車)」、「長者嗣子」、「三草二木」、「化城」、「繫珠」、「高原鑿水」、「良医」の喩え

聖書、キルケゴール、宮澤賢治、イソップ物語、など。

**トルストイの英知**

「子どものコトバとお伽噺の言語に、お伽噺の言語をもっと高次の言語に翻訳しながら子どもに文語を教えた」  
(ヴィゴツキー)

# 近接化と類似化のこと(資料配布)

「もろもろの事物の諸関係は、つぎの三つの主要な形態においてのみ、考えられ得る」(セチェノフ)。

(1)類似性として、(2)空間的あるいは地形的な結合[性]として、(3)[時間的]継続[性]として。

「言語に関する異なる二つのタイプの基本的な精神作用に対応するのは、・・・」(Roman Jakobson)：

(1)メタファー(隠喩)と、(2)メトニミー(換喩)

(1)選択し代用する、類似性に関わる能力：「鳩で平和を表わす」能力。

(2)近接性、組み合わせ能力：「煙でパイプを表わす」能力。

「ある脈絡の構成要素を結合するのは、近接性という外的関係であり、代用の構えの基礎にあるのは、類似性という内的関係である。」

抽象化と具体化の共有へ  
認識とコミュニケーションのためのM  
(2)

カテゴリー論風の図解の  
続きを板書で展開します。

# 幾つかの具体的事例(1)

- 1) 繰り返し「**箎で水を汲む**」田中菊雄。
  - 「千五百回の練習」(ピアニスト・タールベルクの挿話)。
  - トルストイの「アンナ・カレーニナの推敲」(**資料配布**)
  - 大阪南中学、角田角蔵先生 「**50回、朗読せよ。**」
- 2) 幸田文『みそっかす』に学ぶ、  
**誤解されることの「哀しみ」**
- 3) 宮澤賢治「白墨をかじった賢治の挿話」
- 4) ダイナミックモデル。**水の流れ**、空気の流れ、電気の流れ、人の流れ、物の流れ、お金の流れ、車の流れ、「**流れ学**」。『物理学の散歩道』ロゲルギスト

## 幾つかの具体的事例(2)

(5)コトワザ教育の提唱(庄司和晃)

「江戸の仇を長崎で討つ」(私の実体験)

「売り家と唐様で書く三代目」(西鶴『置き土産』)

(6) Synectics

(7) 数学では、事例は溢れている。

一つには、数学はパターン(構造)の学問だから。

山内恭彦『物理数学』岩波書店:1964年「教材映画とモデル化」参照、弥永昌吉教授のコメント

高校一年生、第三学期での三角関数の学習は、完璧に習得すれば、後々の数学学習のモデル構造となりうる。

(8)水道方式におけるタイルと整数の加減

：一万、十万、百万、一千万、一億、一兆の間の差異の  
実感は？

## 幾つかの具体的事例(3)

### (9) B. Pascalの言葉

- 「人を有益にたしなめ、その人にまちがっていることを示してやるには、彼がその物事をどの方面から眺めているかに注意しなければならない。なぜなら、それは通常、その方面からは真なのであるから。そしてそれが真であることを彼に認めてやり、そのかわり、それがそこからは誤っている他の方面を見せてやるのだ。彼はそれで満足する。なぜなら彼は、自分がまちがっていたのではなく、ただすべての方面を見るのを怠っていたのだということを悟るからである。

## 幾つかの具体的事例(3)

### B. Pascalの言葉(続き)

ところで、人は全部は見ないということにはついては腹を立てないが、まちがったとは思ったがらないものである。これはおそれを見なく、人間というものは、あらゆるものを見ることができないのが自然で、また自分が眺めている方面についてならば、まちがいでないのが自然であるということに由来するるのである。感覚の知覚というものは、常に真であるから。」

(『パンセ』第一章「精神と文体とに関する思想」九、69ページ、前田陽一・由木康訳、『世界の名著29』中央公論社)

つぎに、Ernest Beckerの言葉



## 幾つかの具体的事例(4)

### Ernest Beckerの言葉

「私は、過去数年に渡って次第に次のように認識するようになってきた。すなわち、人間の知識の問題は、[自らの見解に]対立するさまざまな諸見解に[自らも]反対し、それらを粉砕することではなくて、**ある一つのより大きな理論的構造**のなかに、それら[対立する諸見解]を包含することである。」  
(Ernest Becker, 1973, “Denial of Death”. xi)

さらに豊かな「出会い」を求めて  
(資料配布)

「理解するとは、

我を汝のうちに

再び見出すことである。」

ディルタイ

吉田章宏の小世界にご招待

ホームページ:

吉田章宏の小世界

心理学・現象学・教育

<http://yoshidaakihiro.jimdo.com/>

ありがとう

本日は、お出かけくださり、

有難うございました。

淑徳大学池袋サテライト・キャンパスは、この3月をもって、閉鎖となります。

皆さまの長い年月に亘るご好意に感謝します。

有難う御座いました。さようなら。令掌

吉田章宏